

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
青葉小学校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

青葉小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

| | |
|-----|-----------------|
| 国語A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 国語B | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 算数A | 全国平均正答率を上回っている。 |
| 算数B | 全国平均正答率を下回っている。 |

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

| | | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|--------|----|------|------|------|------|
| 平成24年度 | 本市 | 79.4 | 52.2 | 70.4 | 56.1 |
| | 全国 | 81.6 | 55.6 | 73.3 | 58.9 |
| 平成25年度 | 本市 | 60.3 | 46.3 | 74.6 | 56.5 |
| | 全国 | 62.7 | 49.4 | 77.2 | 58.4 |
| 平成26年度 | 本市 | 69.1 | 52.6 | 76.2 | 55.4 |
| | 全国 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 |

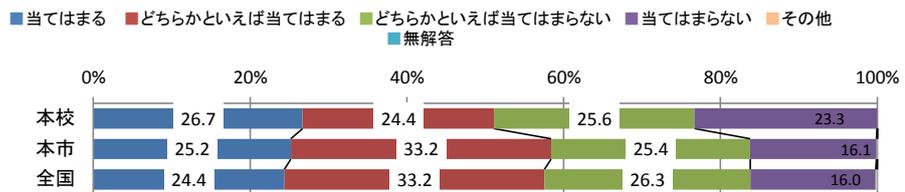
② 学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | 昨年度より、全国平均正答率を下回っていたが、本年度は、また、さらに下回っていた。言葉の意味や理解、使い方に課題があり、話すこと・聞くことが苦手である。 |
| | よくできた問題 | 漢字を「読む・書く」においては、全国平均正答率を上回っている問題が多い。 |
| | 努力が必要な問題 | 話し合いの観点に基づいて情報を関係つける問題の正答率が特に低かった。 |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均正答率をわずかに下回っていた。話し合いを整理したり、内容を関連づけて自分の考えを書くことに課題がある。 |
| | よくできた問題 | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の問題の正答率が特に高い。 |
| | 努力が必要な問題 | 付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える問題の無解答率が高かった。 |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均正答率をやや上回っている。領域別にみると「数と計算」「図形」が全国平均正答率を上回っている。 |
| | よくできた問題 | 割合が1より小さい場合でも比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解していることを問う問題の正解率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | 減法と乗法の混合した整数の計算問題が特に、全国平均正答率を下回っていた。 |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | 4領域において全国平均正答率を下回っている。特に、「図形」の領域が、正答率を下回っている。数量や図形について数学的な考え方の不足が考えられ、応用問題が苦手なことが分かった。 |
| | よくできた問題 | 示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題の正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題の正答率が低かった。 |

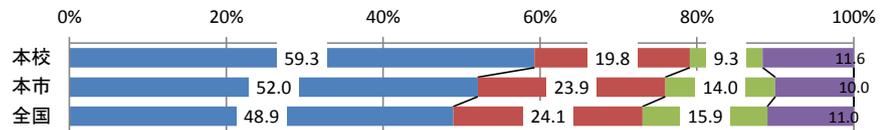
③ 学校での学習状況に関する調査結果

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

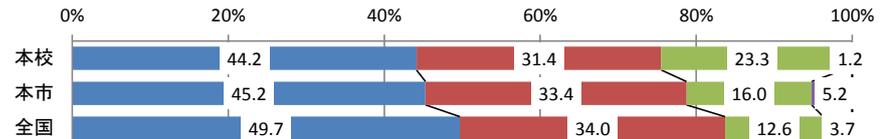
| |
|--|
| 47 |
| 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか |



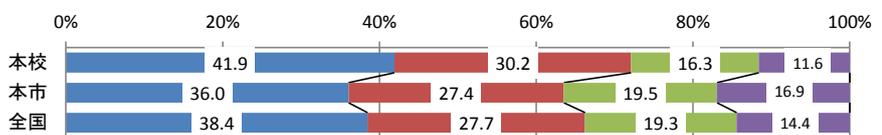
| |
|----------|
| 53 |
| 読書は好きですか |



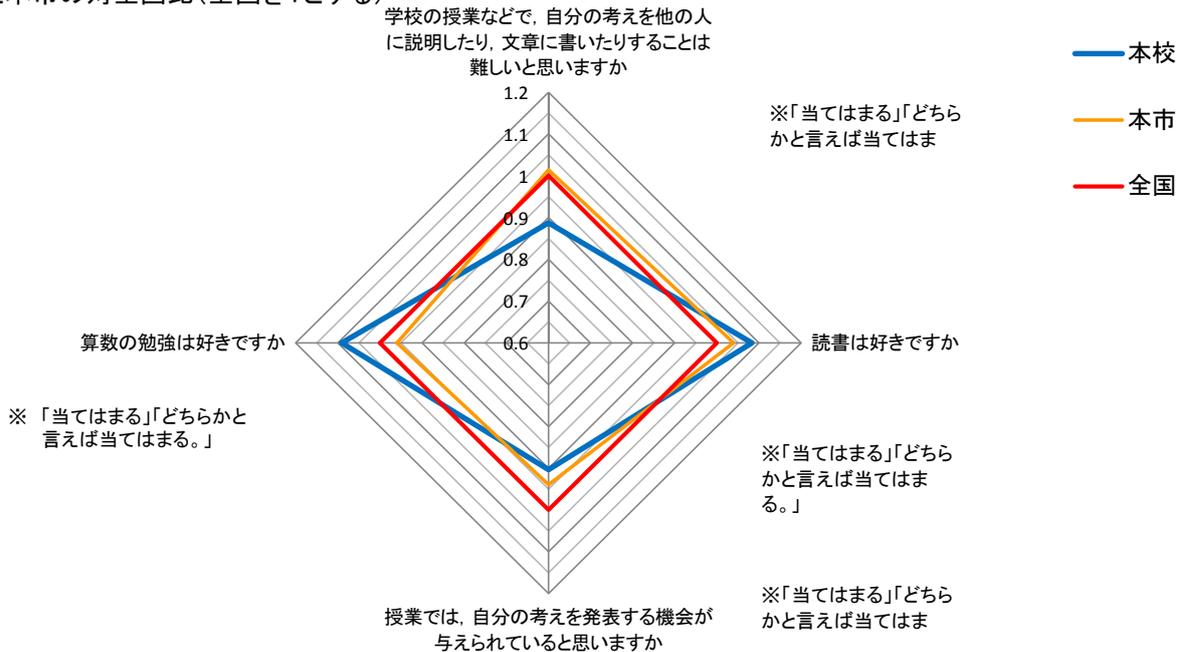
| |
|---------------------------------|
| 42 |
| 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか |



| |
|-------------|
| 62 |
| 算数の勉強は好きですか |



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



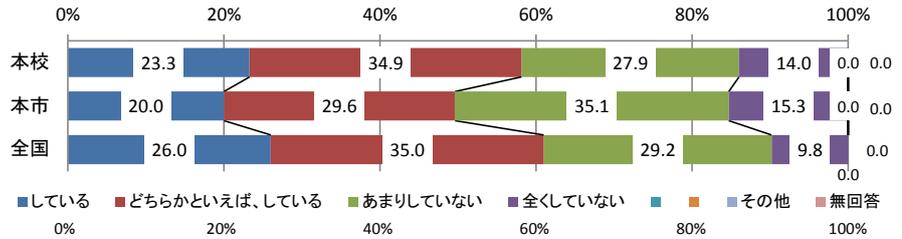
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

読書が好きだと答えた児童が全国平均を上回っている。これは、ブックヘルパーによる読み聞かせや、図書館開放の成果が出てきている。授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいととらえていない児童が全国と比較しても多いことは、授業の終わりにふり返りを書く活動を位置付けている成果が出ていると考えられる。継続して行っていく。発表する機会が与えられていると考える児童が、全国平均を下回っていることより、今後は発表する場をもっと多く取り入れた授業改善を図っていく。

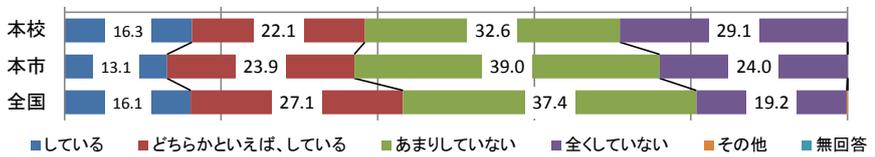
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

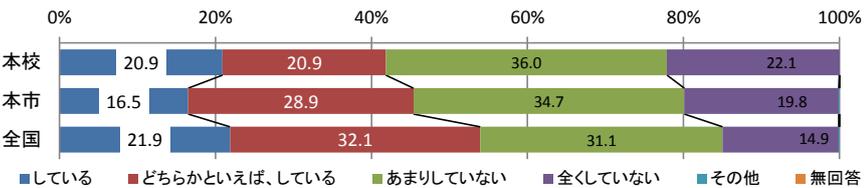
21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



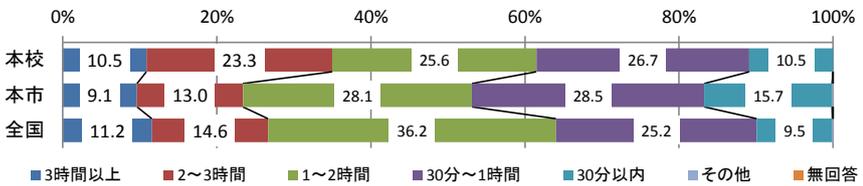
23
家で、学校の授業の予習をしていますか



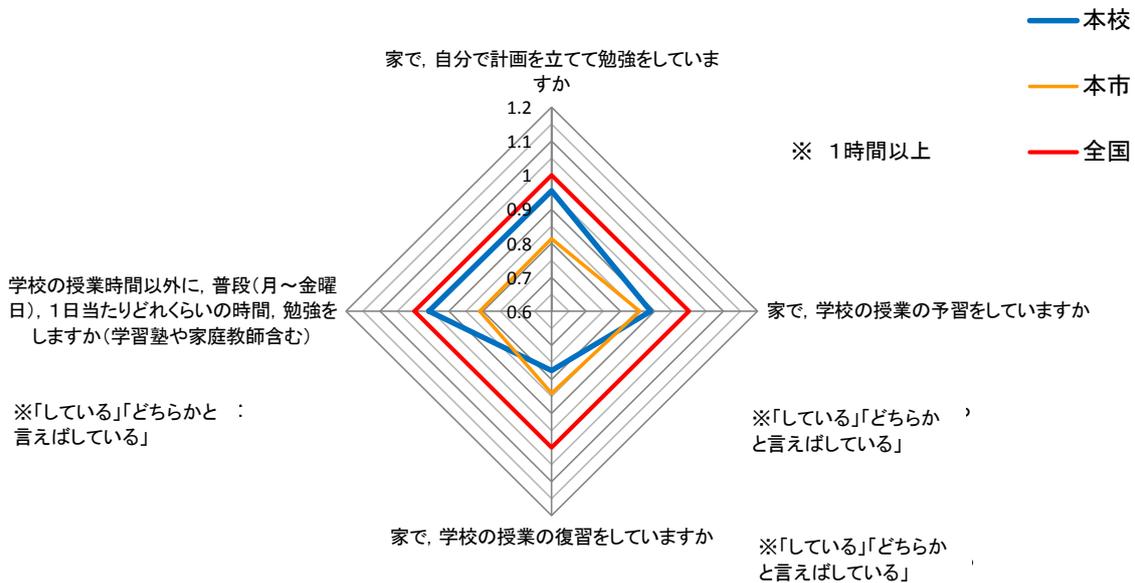
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

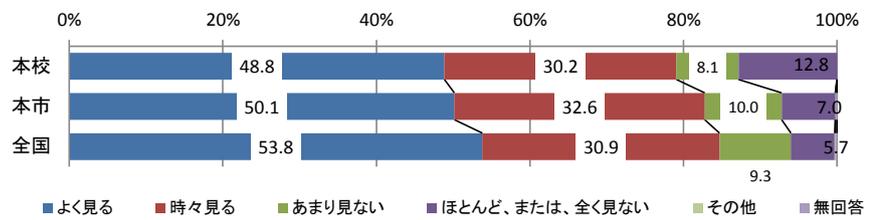


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

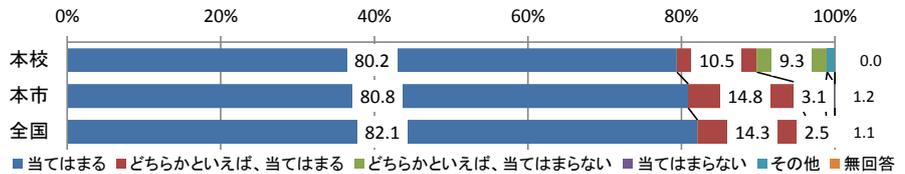
家で学校の授業の予習や復習をしている児童が全国より下回っている。特に、復習をしている児童が下回っていた。さらに、家で計画を立てて勉強に取り組めていない児童が、全国より多かった。学習したことを定着させるためにも、家庭学習において復習の時間を増やすなど、具体的な取り組みを示し、家庭学習の改善を図るための支援が必要である。

④ 生活習慣等に関する調査結果

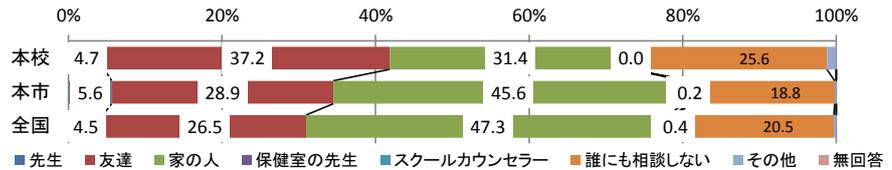
33
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含みます。)



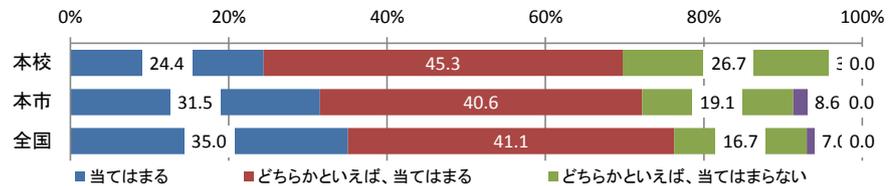
37
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



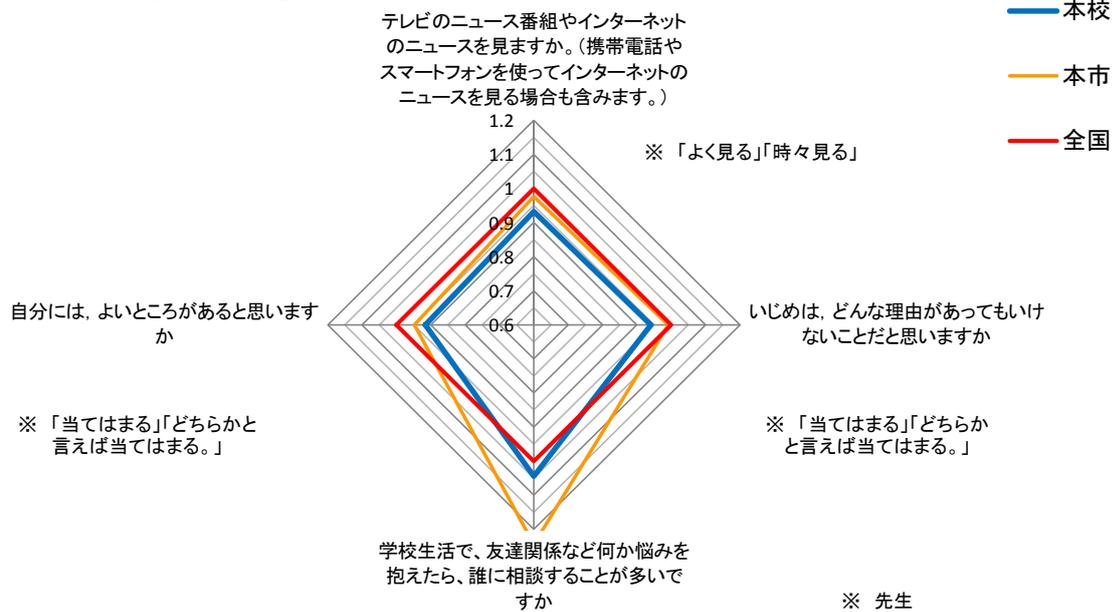
26
学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか



6
自分には、よいところがあると思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

スマートフォンや携帯電話を使って、情報を得ている児童が昨年度は、全国より大きく上回っていた。本年度は、全国と比較すると使用している児童が減っているように感じられるが、全国でそれらを使って情報を得ている児童が急増している現状を考えると、決して使用している児童が減っているわけではない。正しい使い方を指導していく必要がある。悩みを抱えた児童が、誰にも相談しないと答えた児童が全国より多かった。誰かに話せる体制を整える必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の実施

・朝自習全校一斉に「青葉タイム」を実施(曜日ごとに内容を決めて取り組む)

①いきいきタイム ②国語タイム ③④計算タイム ⑤読書タイム

◎学力状況調査の過去の問題を冊子にして、取り組むことによって基礎・基本の徹底を図る。

◎主題研修(算数科)を中心に子どもが共に学び合うよさを実感し、自尊感情と学習意欲を高めるように取り組んでいる。

・学習展開を明確にして、子どもが見通しをもって学習できるようにする。

・学習の最後に、ふり返りタイムを行い、書くことの習慣化を図る。

・学習の中に「学び合い」を取り入れ、対人スキルアップの成果を生かした学習をする。

○音読発表会に向けて、ひまわりの音読にさらに取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎規則正しい生活習慣の大切さを子どもだけでなく、保護者にもわかってもらう。

・「早寝・早起き・朝ごはん」の効果为学校だより、学年通信、懇談会などで知らせる。

・ゲーム、携帯、スマートフォン使用の怖さについても機会をとらえて周知する。

◎学年ごとに宿題の内容・分量を統一して、毎日 低学年30分 中学年45分 高学年60分は机について学習する習慣をつけるようにする。

・低学年…漢字・計算・音読など基礎的内容のプリント

・中高学年…基礎的学習プリント+自主学習(予習・復習・自由調べなど)

◎家庭学習を充実させる取組み・「家庭学習チャレンジハンドブックの」活用(活用の仕方について共通理解を図り、懇談会や通信などでその取組みについて説明し、協力体制を整えた。)

・毎月1日に持参して、担任が目を通し励ます。

○家庭学習マイスター賞への応募。